

愛川町で採集された注目すべき甲虫について

苅部治紀・藤田裕・高桑正敏・新津修平・松本慶一・荏沢幸世

Haruki Karube, Hiroshi Fujita, Masatoshi Takakuwa, Shuhei Niitsu,
Keiichi Matsumoto, Sachiyo Nirasawa : Remarkable beetles from
Aikawa-machi, Kanagawa Prefecture

はじめに

愛川町は神奈川県ほぼ中央部、丹沢山地の東端に位置し、相模川と中津川をかかえる、34.29平方kmの面積を有する町である。愛川町では平成5年度から、博物館建設の基本資料収集のため博物館展示基礎調査を始めており、この中で昆虫類も調査を行ってきた。同町の昆虫相についてはチョウ類などで断片的な記録が見られるものの、まとまった調査は今回が初めてである。愛川町は、現在も県内としては山林面積の広い地域であるが、それはスギ植林がほとんどであり、また、近年開発も進行しており昆虫相は貧弱であろうと予想していた。ところが、調査が進行するにつれ我々の予想をくつがえすように興味深い昆虫たちが続々と発見されており、このうちのいくつかは、既に「神奈川虫報」等で発表されている。

今回は、この調査で確認された甲虫の中から、特に「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」に収録されている種を中心に、興味深いものについて報告する。なお、調査は平成7年9月で終了したが、小型甲虫の一部は同定が困難なため、まだリストアップが終了していない。この中からも重要な記録の出る可能性はあるが、今回は割愛した。

報告にあたり、調査にご協力頂いた豊田浩二・佐藤陽路樹・高桑翔・調査会事務局（山口研一・越智卓也）、調査地立ち入りの便宜を計っていただいた八菅神社・愛川ふれあいの村、同定をお願いした平野幸彦・高橋和弘・奥島雄一の各氏に感謝する。なお、この調査は愛川町教育委員会の委託で行ったものである。

※調査データ中の地名は、全て愛川町内なので、町名は省略した。また、調査で得られた標本については、将来的に愛川町が建設を進めている郷土博物館に収蔵される。

オサムシ科 Carabidae

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii* (Morawitz)

1頭、愛川ふれあいの村、14.VII.1995、藤田採集。

県内では記録の少ない種類であるが、今回バナナトラップに来集していたものが得られた。本種は樹液に来集していた記録もあるが、樹液（バナナ）に引かれてきたのか、そこに集まる昆虫の捕食が目的なのかは不明である。

アカガネアオゴミムシ *Chlaenius abstersus* Bates

3♂2♀、愛川ふれあいの村、29-30.VII.1995、松本・豊田採集；1♂、同、25.X.1995、松本・豊田採集；1♀、同、29.IX.1995、苅部採集；1♂2♀、同、2.X.1995、苅部採集。

県内では、近年の記録がなかった種であるが、芝地に接する側溝拾い及び夜間の見回りで、キャンプ場脇の苔むした所や芝の中で徘徊するものなどが採集された。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringi* Clark

1♂、坂本、20.VI.1995、藤田採集。

県内では、減少が著しい種であり、近年の記録は厚木市上荻野（増田、1995）のものしかない。今回プールの清掃の際に発見されたもので、おそらく近隣の水田や休耕田などで発生しているものと考えられる。

コガネムシ科 Scarabaeidae

ムネアカセンチコガネ *Bolbocerosoma nigroplagiatum* (Waterhouse)

1♀、愛川ふれあいの村、19.VII.1995、新津採集；1♂1♀、25.IX.1995、松本・豊田採集；2♀♀、同、29.X.1995、苅部採集；1♂1♀、同、2.X.1995、苅部

採集。

近年減少が目立つ種であるが、愛川ふれあいの村の芝地と林の境付近でのライト・トラップや夕方飛翔中のもの、古い糞トラップにきていたものなどが採集されている。

ヒゲコガネ *Polyphylla laticollis* Lewis

1♂1♀, 大塚下, 20.VIII.1995, 苅部・藤田採集。本種は、主に河川敷に見られる大型種であるが、近年河川敷環境の破壊によって生息地が激減している。かつては県下全域から広く知られていたが、90年代に入ってから数地点で記録されているに過ぎない。今回の調査では、相模川土手から河川敷に向けて行ったライト・トラップに飛来したものが採集された。

ヒゲブトハナムグリ *Anthypna petinata* Lewis

5♂♂, 天神前, 15.V.1995, 苅部・葦沢採集; 3♂♂, 角田, 15.V.1995, 藤田採集; 22♂♂, 愛川ふれあいの村, 18.V.1995, 越智・藤田採集; 34♂♂1♀, 天神前, 20.V.1995, 苅部採集; 5♂♂1♀, 角田, 20.V.1995, 苅部採集; 1♂, 愛川ふれあいの村, 23.V.1995, 藤田採集。

本種は和田(1982)により、津久井町三ケ木から神奈川県初記録として報告されたが、その後数カ所で記録されているのみである。本種は疎林や林縁の赤土がむき出しになった部分を好む。天神前では放置された造園屋の敷地内の、整地した跡や樹木を掘り取った跡などの表土露出部分で集中して見られた他、隣接する畑の裸地部分にもかなり見られた。また、角田では河川敷にあるモトクロス練習場の轍の部分、愛川ふれあいの村では、山野草園内の植栽がまばらな部分に見られた。今回の観察では、晴天の日には地表スレスレをハエのようにとびまわる本種が多数見られたが、これらは♂ばかりであり、探雌飛翔を行っているものと思われる。♀はほとんど確認できなかったが、おそらくやや遅れて発生するものと思われる。

なお、天神前では地上で交尾中のものを一例確認した。発見したときはすでにマウント態勢に入っていたが、そのまわりを数頭の♂がまわりつくように飛び回っていたので、メスはなんらかのフェロモンを発しているのであろう。この交尾したメスは、オスを乗せたまま地面に穴を掘り、潜りはじめた。時間の関係で最後まで観察できなかったが、メスの体は完全に地面下に潜りこみ、オスはしがみつくの必死という感じであった。偶然の観察例かもしれないが、はたして本種は交

尾時に地面下に潜るのであろうか？

本種は一般に記録の少ない種であるが、これは発生時期が県内丘陵地で5月中旬～下旬の短い期間であることと、地表近くを一見ハエのような飛び方で飛ぶため、本種と気づきにくいこと、あまりにありふれた環境で、逆にポイントがしぼりづらいことなどによるものと考えられる。

アカマダラコガネ *Poecilophilides rusticola* (Burmeister)

1頭, 愛川ふれあいの村, 26.VII.1995, 藤田採集; 1頭, 同, 5.IX.1995, 藤田採集; 1頭, 同, 11.IX.1995, 藤田採集。

最近、県内からの記録が途絶えていたが、愛川ふれあいの村から発見することができた。採集されたのは3個体で、いずれもクヌギの幼木の樹液(シロスジカミキリ幼虫の加害によると思われる)に、他のカナブン類とともに来集していた。7月26日の採集個体は越冬後の成虫と思われ、上翅がすれて、ふ節も破損していた。一方、9月に採集した個体はいずれも新鮮で新成虫と思われる。樹液の出ている傷口にうずくまり、めり込んだ形で吸汁している本種の姿は、醗酵した樹液に溶け込んで、見事な保護色となっていた。

ムラサキツヤハナムグリ *Protaetia cataphracta* Arrow

1頭, 経ヶ岳, 10.VIII.1994, 藤田採集; 2頭幼虫, 高取山, 18.XII.1994, 高桑・藤田採集(1頭羽化); 1頭, 経ヶ岳, 11.VII.1995, 藤田採集; 1頭, 同, 12.VII.1995, 藤田採集; 1頭, 同, 13.VII.1995, 藤田採集; 1頭, 愛川ふれあいの村, 15.VII.1995, 高桑・藤田採集; 1頭, 経ヶ岳, 31.VII.1995, 藤田採集; 1頭, 同, 16.VIII.1995, 藤田採集; 1頭, 愛川ふれあいの村, 5.IX.1995, 藤田採集

本種の神奈川県内からの記録は、大場ほか(1981)による三浦半島からの報告のみであったが、経ヶ岳付近・愛川ふれあいの村から新たに発見できた。本種は平地から丘陵地にかけての雑木林に生息し、クヌギやコナラなどの樹液に集まることが知られている。今回の調査では、愛川ふれあいの村の植栽されたクヌギの樹液に来ていたもの、経ヶ岳(標高500m付近)のコナラ主体の雑木林にかけたバナナ・トラップに来ていたものが採集された。また、冬季に愛川ふれあいの村から高取山への登山道(標高540m付近)にあったモミの立ち枯れからハナムグリの幼虫を採集・飼育したところ、翌年初夏に本種が羽化してきた。

タマムシ科 Buprestidae

トゲフタオタマムシ *Dicerca tibialis* Lewis

1 頭, 仏果山, 12.VII.1994, 藤田採集; 2 頭, 高取山, 18.XII.1994, 高桑・藤田採集.

県内では、丹沢大山が産地として著名であるが、その他には津久井道志山 (大坪, 1992) の記録が知られているだけであった。7 月に得られたものは越冬後のものと思われるやや古い個体で、半原越から仏果山への登山道沿いの、日当たりのよい場所に落ちていた広葉樹の枯れ枝に飛来したものである。12 月には高取山への登山道沿いの直径約 40cm 程のスギ樹皮下から越冬中のものが発見された。

ジョウカイボン科 Cantharidae

クラヤミジョウカイ *Athemus nigerrimus* Yamaji et Nakane (図 1)

1 ♀, 経ヶ岳, 14.V.1995, 高桑・高桑翔・藤田採集.

経ヶ岳での春期調査のうちに、多数のジョウカイボンに混じって 1 頭だけ採集されたもので、神奈川県初記録になる。図鑑に出ているような黒色タイプではなく、上翅の会合部付近が黒色を帯びる程度のもので、筆者らはジョウカイボンと思い込んでいたが、奥島・高橋両氏のご教示で、本種と判明したものである。採集時には本種と気づいていなかったため、採集状況の詳細は不明である。本県産の本種がこのような色彩を持っているとすると筆者らのようにジョウカイボンと混同している可能性もあるので、お手元のジョウカイボンを色彩にとらわれずにチェックしてみることをお勧めする。

カッコウムシ科 Cleridae

ルリツツカッコウ *Tenerus lewisi* Lohde (図 2)

ケヤキ材採取, 上原, 20.XI.1994, 苅部採集, 1 頭羽化, V.1995.

本種はこれまで県内から記録がなかった種で、今回が神奈川県初記録となる。キンケトラカミキリの採集のために段丘斜面にあるケヤキ大木下に落ちていた直径 10cm ほどの枝を拾ってきたところ、脱出してきたもので、同時に数頭のキムネツツカッコウも脱出した。

カミキリムシ科 Cerambycidae

ベーツヒラタカミキリ *Eurypoda batesi* Gahan

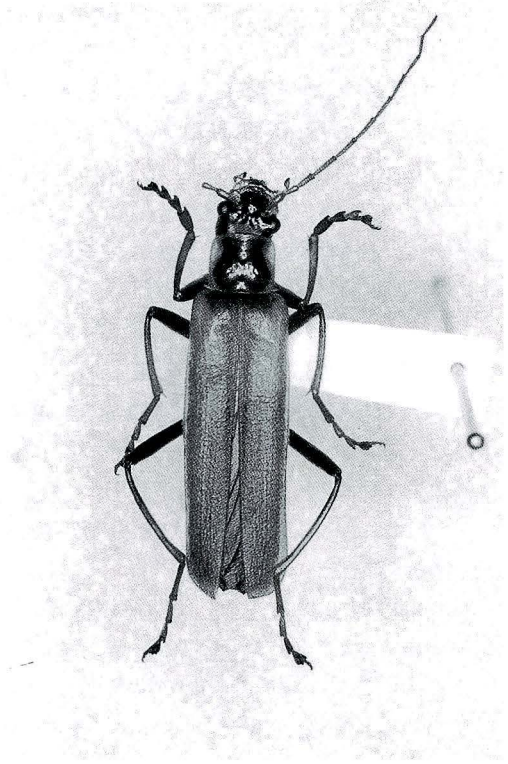


図 1. クラヤミジョウカイ

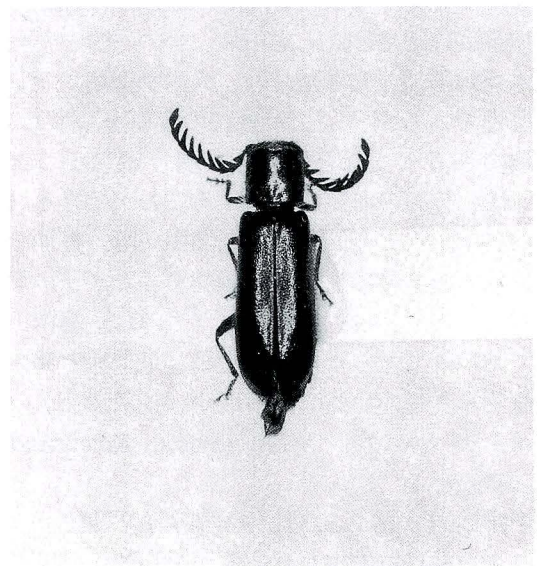


図 2. ルリツツカッコウ

1 ♂, 3.VIII.1995, 八菅神社, 藤田採集.

春の調査時に、八菅神社社叢林にあるスダジイ古木に本種の脱出孔を発見し、発生期に頻繁に調査に訪れたが採集できたのは上記 1 例のみであった。境内には太いスダジイがかなり見られるが、本種の脱出口が認められる木は少なく、個体数も少ないものと思われる。県内では主に海岸沿いに分布し、内陸での記録は伊勢原市 (露木ほか, 1981) に次ぐものである。

ヒラヤマコブハナカミキリ *Enoploderes bicolor*
Ohbayashi

1 ♂ 1 ♀ (掘り出し), 愛川ふれあいの村,
1.IV.1995, 苅部・葦沢採集; 4 ♂ 2 ♀, 同,
24.IV.1995, 苅部採集.

県内では、箱根・湯河原地域から多くの採集例
があるが、丹沢山塊からの記録は津久井町城山
(藤村, 1954) が、知られているだけであった。今
回、愛川ふれあいの村裏山の二次林中で本種の食
跡のあるアカメガシワの空洞を発見し、4月1日
には材中の成虫の掘り出し(この時はまだ脱出成
虫はいなかった)、続いて4月24日には空洞から
の追い出しで採集した。

アカイロニセハムシハナカミキリ *Lemura*
nishimurai Seki

1 ♂, 経ヶ岳, 15.V.1995, 高桑翔採集.

花をつけたミズキの枝先に静止中の個体を発見
した。県内では東丹沢から津久井郡にかけて局地
的に採集されている(露木ほか, 1981など)が、仏
果山地からは初めて知られるものである。

オオトラカミキリ *Xylotrechus villioni* Villard

加害痕確認: 高取山、志田峠、メモリアルパーク.

本種は稀種として知られ、成虫を採集すること
は困難であるが、幼虫が独特の食痕を残すため、
食樹であるモミなどでの加害痕を調べることに
よって、分布の有無を確認することができる(高
桑, 1990など)。今回の調査期間中に町内各地の尾
根に残るモミ林で加害痕を確認できたが、いずれ
も古いもので、最近加害されたものは、高取山で
の1例のみであった。県内では、東丹沢と津久井
から記録されている(露木ほか, 1981など)。

キボンチビカミキリ *Sybra* (*Sybra*) *flavomaculata*
Breuning

1 頭, 経ヶ岳, 10.VII.1994, 苅部採集.

モミの枯れ枝の中から死骸が得られた。県内では
丹沢と津久井郡藤野町から知られている。丹沢
では露木ほか(1981)による秦野市大倉、露木
(1992)による相模大山から記録があるにすぎな
かった。

クモノスモンサビカミキリ *Graphidessa venata*

venata Bates

2 ♂ 2 ♀, 高取山, 9.VII.1995, 高桑採集; 1 ♀,
同, 26.VII.1995, 高桑採集.

高取山山頂近くの2本のミズキ倒木の細枝部から
得られた。県内では箱根と丹沢に生息し、丹沢で
は山北町皆瀬川での記録(東京農業大学第一高等
学校, 1972)があるにすぎなかった。

フチグロヤツボシカミキリ *Pareutetrappa exima*
(Bates)

1 ♀, 志田山, 31.V.1994, 藤田採集.

成虫の採集例は上記だけであるが、寄主植物で
あるホオノキの葉には、八菅山や経ヶ岳、高取山
など各地で本種の後食後が見られた。県内では近
年になって生息が知られた種であるが、津久井か
ら丹沢・箱根にかけては広く分布しているものと思
われる。丹沢山塊としてはこれまで厚木市(高
橋, 1983)の記録を見るだけであった。

参考文献

- 厚木市教育委員会 (1995) 厚木市荻野の動物 I
藤村俊彦, 1954. カミキリ 4 題. 新昆虫, 7 (13):
26.
神奈川県レッドデータ生物調査団編 (1995) 神奈
川県レッドデータ生物調査報告書: 甲虫類
212-254.
高橋和弘, 1983. 神奈川県でフチグロヤツボシカ
ミキリを採集. 月刊むし, (151): 32.
高桑正敏, 1990. 神奈川県産の注目すべき甲虫若
干. 神奈川自然誌資料, (11): 121-124.
東京農業大学第一高等学校, 1972. 西丹沢皆瀬川
流域の昆虫相. Field, (19): 28-42.
露木繁雄, 1992. 神奈川県初記録のカミキリムシ
“ヨツボシシロオビゴマフ”. 神奈川虫報,
(100): 160-161.
露木繁雄・新堀豊彦・窪田勝信・高桑正敏, 1981.
神奈川県産カミキリムシ科目録. 神奈川県昆虫
調査報告書, pp.419-454. 神奈川県教育委員会.

(愛川町郷土博物館展示基礎調査会動物部会 - 昆
虫 -)